第 4 回今金町文化財保存活用地域計画策定委員会会議録

開催日時：令和 4 年 3 月 15 日（火）13:30～15:00
開催会場：今金町総合体育館研修室
出 席 者：委員 11 名（欠席 1 名）
　　教育長
　　事務局担当課・連携課 4 名（局長、主幹、参事、協力隊員）
※全体進行：住吉局長

１．開会挨拶

長沼委員長：これまでの当委員会での発言や文化庁・道教委との協議を踏まえ、計画原案がまとまりつつある。本日の会議をもって最終的なまとめとしたい。

中山教育長：皆様のおかげで本日の最終段階に迎えることができた。感謝申し上げる。計画策定委員会としては今回が最後であるが、組織名称を変え、皆様には引き続き今後もお力添えをお願いしたい。

２．協議事項

（１）計画素案について　資料１・資料２

事務局：資料 1（計画原案）・資料 2（課題措置対応表）について、前回会議からの主な変更点について概略説明を行った。

長沼委員長：全体的な印象、あるいは個別分野についてご意見等ありますか。

山田委員：全体としては大変わかりやすいものになっている。人口推移で、高齢化率の急激な上昇については背景等の説明も必要（ほか、細部の指摘事項あり）。

小林委員：1995 年に町で実施された茅葺き屋根家屋の調査報告書に準じ、用語は本報告書に合わせて統一してほしい。

能條委員：自然史に関するものが丁寧に扱われていて、今金町の計画らしいと感じた。これまで本分野はあまり文化財として扱われてこなかったが、近年「自然史財」という語が提唱され、標本の保存と活用について文化財同様の扱いが叫ばれており、これも意識していただきたい。今は見えていないものや一部欠けているものをどう見つけるかという意識が重要と考える。待っているだけでは価値あるものが失われてしまう。今後の調査はこうした意識を持ってほしい。活用については、各地にジオパークがあるため、こうした地域と連携交流を進めてほしい。

宮塚委員：大正 11 年（1922）完成の灌漑用水路が、戦後撮影の航空写真で確認できた。水を温める施設「ぬるめ」も確認でき、その規模の大きさに驚いた。本用水路の価値付けについても進めていただきたい。

山田委員：本用水路は北海道最古に当たる。規模の上では大正 14 年完成の石狩川の北海幹線用水路に及ばないが、技術的に目を見張るものがあり貴重な遺産だ。

紀藤委員：化石やマンガン、砂金はいずれも地学に関わるもの。説明はあるが、この地域にそれがある理由を子どもたちにも理解しやすいように伝えてほしい。
ピリカ遺跡の史跡整備の関係で、旧石器時代の植生を再現したグイマツとアカエゾマツは大きく生長し、景観づくりとしては一段落した。次のステップとして遺跡の新しい見せ方を検討していただきたい。

小田島副委員長：遺跡ボランティアの立場として、砂金やマンガン鉱山関連資料についてはこれまで詳しい説明資料がなかったが、計画書にはそれらも網羅されており大変ありがたい。ボランティア養成用のテキストとしても十分使えるもので、今後の裾野を広げる活動に期待している。

勝山委員：各専門分野の先生方に当町の文化財の価値付けをしていただき、これまで何となく知っていたものが、町として誇れるものだとわかったことは大きい。

仁木委員：町の農業史がよくわかるものになっている。これまで、若い農業後継者が農業用水路の意義や治水の歴史、開拓史等を学べるものがなかった。多くの農家にとっても生産活動の励みになると感じている。

酒井委員：学校運営協議会で「ふるさと教育」として令和 4 年度計画を検討中のところ、今回「ふるさと学習プログラム」として提案があり、ありがたい。本計画書は中学生以上なら理解できるものになっており、郷土に誇りをもてる子どもの育成にも役立つと感じた。

多田委員：我が町にはたくさんの埋もれた貴重な文化財があることに気付いた。これらの歴史文化資源をつなげてストーリーにし、観光ルートや観光マップを開発・作成することが重要と感じた。観光協会としても持ち帰って検討したい。

長沼委員長：関連文化財群として 4 つ提示したところだが、その前段に今金町の歴史文化の特徴として 8 つを抽出しており、残されたものについても関連文化財群としての追加設定を今後検討する必要があると感じた。
国の有形文化財の登録基準では、築 50 年以上という基準が近く外れるようだ。いまかね遺産の選定では、築年数に関わらず広く拾い上げて把握を進めていただきたい。

（2）今後の予定について

事務局：パブリックコメントを 3 月 18 日から 28 日に実施。答申書手交式を 3 月 31 日午後 1 時 30 分、役場庁舎にて行う予定。4 月に文化庁へ計画原案を提出。

長沼委員長：パブリックコメントでもし意見等あれば、一覧化し当委員会にも情報提供いただきたい。令和 4 年度の事業計画について説明願いたい。

事務局：令和 4 年度は主に、把握調査で確認した埋蔵文化財包蔵地の試掘調査と、新規指定記念の巡検バスツアーを企画している。また、令和 5 年度に計画している美利河砂金採掘跡の整備に先立ち、その準備段階の業務を予定している。

長沼委員長：昨年の縄文遺跡の世界遺産登録を受け、個人的には各地の史跡を巡るバスツアーのお手伝いをしている。当町のピリカ遺跡では、遺跡を活用したイベントや石器づくりなどの体験学習があり、また砂金掘り体験やマンガン鉱山関連もあり、事業展開できる素材は多いと思うので、スタッフ確保の課題はあろうがぜひ町として検討いただきたい。

山田委員：北海道遺産の今回の募集には今金町も申請したと伺っている。上士幌町は早くから取り組んでいて、産業遺産学会との連携事業も展開されているので、今後の活動の参考にしていただきたい。

事務局：北海道遺産の募集には当町として 2 件（「後志利別川流域の砂金採掘・金山関連遺産」、「美利河マンガン鉱山関連遺産」）を申請したところ。令和 4 年 10 月に結果が公表される予定。

長沼委員長：全体として、学術的な調査や価値付けを進めながら、先日開催された推進フォーラムのような町民向け講演会も定期的に開催し、町民の理解と協力のもとに進めることが重要になる。

3．閉会

以上